

# 医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会のIF記載要領 2008 に準拠して作成

めまい・平衡障害治療剤

日本薬局方 ベタヒスチンメシル酸塩錠

**ベタヒスチンメシル酸塩錠 6 mg「テバ」**  
**ベタヒスチンメシル酸塩錠 12 mg「テバ」**  
**Betahistine Mesilate Tab.6mg・12mg“TEVA”**

剤形	錠剤(素錠)
製剤の規制区分	処方箋医薬品 (注意—医師等の処方箋により使用すること)
規格・含量	6mg : 1錠中 日局 ベタヒスチンメシル酸塩 6mg 含有 12mg : 1錠中 日局 ベタヒスチンメシル酸塩 12mg 含有
一般名	和名:ベタヒスチンメシル酸塩(JAN) 洋名:Betahistine Mesilate(JAN)
製造販売承認年月日 薬価基準収載・ 発売年月日	製造承認年月日 : 2012年 2月 15日(販売名変更による) 薬価基準収載年月日 : 2012年 6月 22日 発売年月 : 6mg : 2006年 3月 12mg : 1978年 4月
開発・製造販売(輸入)・提携・ 販売会社名	販売:武田薬品工業株式会社 発売元:武田テバファーマ株式会社 製造販売元:武田テバ薬品株式会社
医薬情報担当者の 連絡先	
問い合わせ窓口	武田テバ薬品株式会社 武田テバ DIセンター TEL 0120-923-093 受付時間 9:00~17:30(土日祝日・弊社休業日を除く) 医療関係者向けホームページ <a href="https://www.med.takeda-teva.com">https://www.med.takeda-teva.com</a>

本IFは2016年10月改訂の添付文書の記載に基づき改訂した。

# IF 利用の手引きの概要

— 日本病院薬剤師会 —

## 1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として医療用医薬品添付文書（以下、添付文書と略す）がある。医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合がある。

医療現場では、当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者等に情報の追加請求や質疑をして情報を補完して対処してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための情報リストとしてインタビューフォームが誕生した。

昭和 63 年に日本病院薬剤師会（以下、日病薬と略す）学術第 2 小委員会が「医薬品インタビューフォーム」（以下、IF と略す）の位置付け並びに IF 記載様式を策定した。その後、医療従事者向け並びに患者向け医薬品情報ニーズの変化を受けて、平成 10 年 9 月に日病薬学術第 3 小委員会において IF 記載要領の改訂が行われた。

更に 10 年が経過した現在、医薬品情報の創り手である製薬企業、使い手である医療現場の薬剤師、双方にとって薬事・医療環境は大きく変化したことを受けて、平成 20 年 9 月に日病薬医薬情報委員会において新たな IF 記載要領が策定された。

## 2. IF とは

IF は「添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

ただし、薬事法・製薬企業機密等に関わるもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等は IF の記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供された IF は、薬剤師自らが評価・判断・臨床適応するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

### 【IF の様式】

- ①規格は A4 版、横書きとし、原則として 9ポイント以上の字体（図表は除く）で記載し、一色刷りとする。ただし、添付文書で赤枠・赤字を用いた場合には、電子媒体ではこれに従うものとする。
- ②IF 記載要領に基づき作成し、各項目名はゴシック体で記載する。
- ③表紙の記載は統一し、表紙に続けて日病薬作成の「IF 利用の手引きの概要」の全文を記載するものとし、2頁にまとめる。

### 【IF の作成】

- ①IF は原則として製剤の投与経路別（内用剤、注射剤、外用剤）に作成される。
- ②IF に記載する項目及び配列は日病薬が策定した IF 記載要領に準拠する。
- ③添付文書の内容を補完するとの IF の主旨に沿って必要な情報が記載される。
- ④製薬企業の機密等に関するもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師をはじめ医療従事者自らが評価・判断・提供すべき事項については記載されない。
- ⑤「医薬品インタビューフォーム記載要領 2008」（以下、「IF 記載要領 2008」と略す）により作成された IF は、電子媒体での提供を基本とし、必要に応じて薬剤師が電子媒体（PDF）から印刷して使用する。企業での製本は必須ではない。

## [IF の発行]

- ①「IF 記載要領 2008」は、平成 21 年 4 月以降に承認された新医薬品から適用となる。
- ②上記以外の医薬品については、「IF 記載要領 2008」による作成・提供は強制されるものではない。
- ③使用上の注意の改訂、再審査結果又は再評価結果（臨床再評価）が公表された時点並びに適応症の拡大等がなされ、記載すべき内容が大きく変わった場合には IF が改訂される。

### 3. IF の利用にあたって

「IF 記載要領 2008」においては、従来の主に MR による紙媒体での提供に替え、PDF ファイルによる電子媒体での提供を基本としている。情報を利用する薬剤師は、電子媒体から印刷して利用することが原則で、医療機関での IT 環境によっては必要に応じて MR に印刷物での提供を依頼してもよいこととした。

電子媒体の IF については、医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページに掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従って作成・提供するが、IF の原点を踏まえ、医療現場に不足している情報や IF 作成時に記載し難い情報等については製薬企業の MR 等へのインタビューにより薬剤師等自らが内容を充実させ、IF の利用性を高める必要がある。また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、IF が改訂されるまでの間は、当該医薬品の製薬企業が提供する添付文書やお知らせ文書等、あるいは医薬品医療機器情報配信サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに、IF の使用にあたっては、最新の添付文書を医薬品医療機器情報提供ホームページで確認する。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等は承認事項に関わることもあり、その取扱いには十分留意すべきである。

### 4. 利用に際しての留意点

IF を薬剤師等の日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用して頂きたい。しかし、薬事法や医療用医薬品プロモーションコード等による規制により、製薬企業が医薬品情報として提供できる範囲には自ずと限界がある。IF は日病薬の記載要領を受けて、当該医薬品の製薬企業が作成・提供するものであることから、記載・表現には制約を受けざるを得ないことを認識しておかなければならない。

また製薬企業は、IF があくまでも添付文書を補完する情報資材であり、今後インターネットでの公開等も踏まえ、薬事法上の広告規制に抵触しないよう留意し作成されていることを理解して情報を活用する必要がある。

(2008 年 9 月)

# 目 次

I 概要に関する項目	1	9. 製剤中の有効成分の確認試験法	8
1. 開発の経緯	1	10. 製剤中の有効成分の定量法	8
2. 製品の治療学的・製剤学的特性	1	11. 力 価	9
II 名称に関する項目	2	12. 混入する可能性のある夾雑物	9
1. 販売名	2	13. 治療上注意が必要な容器に関する情報	9
(1)和名	2	14. その他	9
(2)洋名	2	V 治療に関する項目	10
(3)名称の由来	2	1. 効能又は効果	10
2. 一般名	2	2. 用法及び用量	10
(1)和名(命名法)	2	3. 臨床成績	10
(2)洋名(命名法)	2	(1)臨床データパッケージ	10
(3)ステム	2	(2)臨床効果	10
3. 構造式又は示性式	2	(3)臨床薬理試験：忍容性試験	10
4. 分子式及び分子量	2	(4)探索的試験：用量反応探索試験	10
5. 化学名(命名法)	2	(5)検証的試験	10
6. 慣用名、別名、略号、記号番号	2	1) 無作為化並行用量反応試験	10
7. CAS 登録番号	2	2) 比較試験	10
III 有効成分に関する項目	3	3) 安全性試験	10
1. 物理化学的性質	3	4) 患者・病態別試験	10
(1)外観・性状	3	(6)治療的使用	10
(2)溶解性	3	1) 使用成績調査・特定使用成績調査(特別調査)	
(3)吸湿性	3	・製造販売後臨床試験(市販後臨床試験)	10
(4)融点(分解点)、沸点、凝固点	3	2) 承認条件として実施予定の内容又は	
(5)酸塩基解離定数	3	実施した試験の概要	10
(6)分配係数	3	VI 薬効薬理に関する項目	11
(7)その他の主な示性値	3	1. 薬理学的に関連ある化合物又は化合物群	11
2. 有効成分の各種条件下における安定性	3	2. 薬理作用	11
3. 有効成分の確認試験法	3	(1)作用部位・作用機序	11
4. 有効成分の定量法	3	(2)薬効を裏付ける試験成績	11
IV 製剤に関する項目	4	(3)作用発現時間・持続時間	11
1. 剤 形	4	VII 薬物動態に関する項目	12
(1)剤形の区別、規格及び性状	4	1. 血中濃度の推移・測定法	12
(2)製剤の物性	4	(1)治療上有効な血中濃度	12
(3)識別コード	4	(2)最高血中濃度到達時間	12
(4)pH、浸透圧比、粘度、比重、無菌の旨		(3)臨床試験で確認された血中濃度	12
及び安定な pH 域等	4	(4)中毒域	13
2. 製剤の組成	4	(5)食事・併用薬の影響	13
(1)有効成分(活性成分)の含量	4	(6)母集団(ポピュレーション)解析により判明した	
(2)添加物	4	薬物体内動態変動要因	13
(3)その他	4	2. 薬物速度論的パラメータ	13
3. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意	4	(1)コンパートメントモデル	13
4. 製剤の各種条件下における安定性	5	(2)吸収速度定数	13
5. 調製法および溶解後の安定性	6	(3)バイオアベイラビリティ	14
6. 他剤との配合変化(物理化学的变化)	6	(4)消失速度定数	14
7. 溶出性	6	(5)クリアランス	14
8. 生物学的試験法	7	(6)分布容積	14
		(7)血漿蛋白結合率	14

3. 吸収	14
4. 分布	14
(1)血液-脳関門通過性	14
(2)血液-胎盤関門通過性	14
(3)乳汁への移行性	14
(4)髄液への移行性	14
(5)その他の組織への移行性	14
5. 代謝	14
(1)代謝部位及び代謝経路	14
(2)代謝に關与する酵素(CYP450等)の分子種	14
(3)初回通過効果の有無及びその割合	14
(4)代謝物の活性の有無及びその比率	15
(5)活性代謝物の速度論的パラメータ	15
6. 排泄	15
(1)排泄部位及び経路	15
(2)排泄率	15
(3)排泄速度	15
7. 透析等による除去率	15
<b>VIII 安全性(使用上の注意等)に関する項目</b>	<b>16</b>
1. 警告内容とその理由	16
2. 禁忌内容とその理由(原則禁忌を含む)	16
3. 効能又は効果に關連する 使用上の注意とその理由	16
4. 用法及び用量に關連する 使用上の注意とその理由	16
5. 慎重投与内容とその理由	16
6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法	16
7. 相互作用	16
(1)併用禁忌とその理由	16
(2)併用注意とその理由	16
8. 副作用	16
(1)副作用の概要	16
(2)重大な副作用と初期症状	16
(3)その他の副作用	17
(4)項目別副作用発現頻度及び 臨床検査値異常一覽	17
(5)基礎疾患、合併症、重症度及び手術の有無等 背景別の副作用発現頻度	17
(6)薬物アレルギーに対する注意及び試験法	17
9. 高齢者への投与	17
10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与	17
11. 小児等への投与	17
12. 臨床検査結果に及ぼす影響	17
13. 過量投与	17
14. 適用上の注意	17
15. その他の注意	17
16. その他	17

<b>IX 非臨床試験に関する項目</b>	<b>18</b>
1. 薬理試験	18
(1)薬効薬理試験	18
(2)副次的薬理試験	18
(3)安全性薬理試験	18
(4)その他の薬理試験	18
2. 毒性試験	18
(1)単回投与毒性試験	18
(2)反復投与毒性試験	18
(3)生殖発生毒性試験	18
(4)その他の特殊毒性	18
<b>X 管理的事項に関する項目</b>	<b>19</b>
1. 規制区分	19
2. 有効期間又は使用期限	19
3. 貯法・保存条件	19
4. 薬剤取扱い上の注意点	19
(1)薬局での取り扱いについて	19
(2)薬剤交付時の注意 (患者等に留意すべき必須事項等)	19
5. 承認条件等	19
6. 包装	19
7. 容器の材質	19
8. 同一成分・同効薬	19
9. 国際誕生年月日	19
10. 製造販売承認年月日及び承認番号	20
11. 薬価基準収載年月日	20
12. 効能・効果追加、用法・用量変更追加等の 年月日及びその内容	20
13. 再審査結果、再評価結果公表年月日 及びその内容	20
14. 再審査期間	20
15. 投薬期間制限医薬品に関する情報	20
16. 各種コード	20
17. 保険給付上の注意	21
<b>XI 文献</b>	<b>22</b>
1. 引用文献	22
2. その他の参考文献	22
<b>XII 参考資料</b>	<b>22</b>
1. 主な外国での発売状況	22
2. 海外における臨床支援情報	22
<b>XIII 備考</b>	<b>22</b>
その他の関連資料	22

# I 概要に関する項目

## 1. 開発の経緯

1939 年当時、ある種の血管性頭痛に血管拡張薬としてのヒスタミンが効果があることが知られた。ベタヒスチンメシル酸塩はすでに 1904 年 Loffler によって合成されているが、1941 年 Walter らによってこれの化学的ならびに薬理的性質が調べられ、ヒスタミン類似の作用を有することが報告された。1962 年 Horton らにより臨床試験の結果、経口投与により眩暈、及び眩暈感の消失に有効なことが報告された<sup>1)</sup>。

ベタヒスチンメシル酸塩を主成分とするメタヒスロン錠を後発医薬品として武田テバ薬品株式会社(旧大正薬品工業株式会社)が開発し、「メタヒスロン錠」・「メタヒスロン錠 12 mg」の名称で 1976 年 12 月に承認され、「メタヒスロン錠」は 2005 年 6 月、「医療事故防止等に係る代替新規」により、販売名を「メタヒスロン錠 6 mg」に変更した。更に 2012 年 6 月、メタヒスロン錠 6 mg・12 mg 共に一般名であるベタヒスチンメシル酸塩錠 6 mg・12 mg「テバ」に販売名を変更した。

## 2. 製品の治療学的・製剤学的特性

- 1) メニエル病、メニエル症候群、眩暈症に伴うめまい、めまい感に適応を有している。  
(「V 1. 効能又は効果」の項参照)
- 2) 本剤は、使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないのでいずれも頻度は不明であるが、副作用として、悪心・嘔吐、発疹があらわれることがある。  
(「VIII 8. 副作用」の項参照)

## II 名称に関する項目

### 1. 販売名

#### (1) 和名

ベタヒスチンメシル酸塩錠 6 mg「テバ」

ベタヒスチンメシル酸塩錠 12 mg「テバ」

#### (2) 洋名

Betahistine Mesilate Tab.6mg・12mg“TEVA”

#### (3) 名称の由来

一般名＋剤形＋含量＋会社略号

### 2. 一般名

#### (1) 和名(命名法)

ベタヒスチンメシル酸塩(JAN)

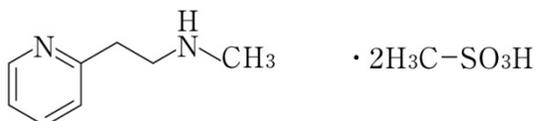
#### (2) 洋名(命名法)

Betahistine Mesilate(JAN)

#### (3) ステム

不明

### 3. 構造式又は示性式



### 4. 分子式及び分子量

分子式: C<sub>8</sub>H<sub>12</sub>N<sub>2</sub>·2CH<sub>4</sub>O<sub>3</sub>S

分子量: 328.41

### 5. 化学名(命名法)

*N*-Methyl-2-pyridin-2-ylethylamine dimethanesulfonate

### 6. 慣用名、別名、略号、記号番号

別名: メシル酸ベタヒスチン

### 7. CAS 登録番号

5638-76-6

### Ⅲ 有効成分に関する項目

#### 1. 物理化学的性質

##### (1) 外観・性状

白色の結晶又は結晶性の粉末である。

##### (2) 溶解性

水に極めて溶けやすく、酢酸(100)に溶けやすく、エタノール(99.5)にやや溶けにくい。  
希塩酸に溶ける。

各種 pH における溶解度(37°C)<sup>2)</sup>

溶液	溶解度
pH1.2	212 mg/mL
pH4.0	221mg/mL
pH6.8	215mg/mL
水	211mg/mL

##### (3) 吸湿性

吸湿性である。

##### (4) 融点(分解点)、沸点、凝固点

融点: 110～114°C(乾燥後)

##### (5) 酸塩基解離定数<sup>2)</sup>

pKa<sub>1</sub>: 3.97(ピリジン環、電気泳動法)

pKa<sub>2</sub>: 10.14(第二アミノ基、電気泳動法)

##### (6) 分配係数

該当資料なし

##### (7) その他の主な示性値

吸光度  $E_{1\text{cm}}^{1\%}$  (261nm): 約 280 [本品の 0.1mol/L 塩酸試液溶液(1→50000)]

#### 2. 有効成分の各種条件下における安定性

該当資料なし

#### 3. 有効成分の確認試験法

日局「ベタヒスチンメシル酸塩」確認試験による

- 1) 紫外可視吸光度測定法(吸収スペクトル)
- 2) 赤外吸収スペクトル測定法(臭化カリウム錠剤法)
- 3) メシル酸塩の定性反応

#### 4. 有効成分の定量法

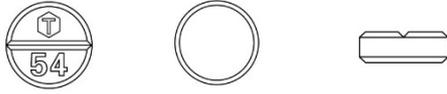
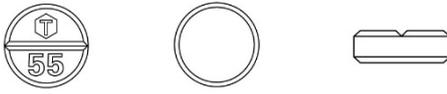
日局「ベタヒスチンメシル酸塩」定量法による

電位差滴定法

## IV 製剤に関する項目

### 1. 剤形

#### (1) 剤形の区別、規格及び性状

販売名	ベタヒスチンメシル酸塩錠 6 mg「テバ」	ベタヒスチンメシル酸塩錠 12 mg「テバ」
性状	白色の割線入り素錠	
外形		
大きさ	直径:6.5mm 厚み:2.3mm 質量:約 100mg	直径:8.0mm 厚み:3.0mm 質量:約 200mg

#### (2) 製剤の物性

該当資料なし

#### (3) 識別コード

錠 6mg

本体: 54 、 PTP シート:TYK54

錠 12 mg

本体: 55 、 PTP シート:TYK55

#### (4) pH、浸透圧比、粘度、比重、無菌の旨及び安定な pH 域等

該当しない

### 2. 製剤の組成

#### (1) 有効成分(活性成分)の含量

錠 6mg は、1 錠中に日局 ベタヒスチンメシル酸塩 6mg を含有する。

錠 12mg は、1 錠中に日局 ベタヒスチンメシル酸塩 12mg を含有する。

#### (2) 添加物

タルク、低置換度ヒドロキシプロピルセルロース、含水二酸化ケイ素、結晶セルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、ステアリン酸カルシウム

#### (3) その他

該当しない

### 3. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意

該当しない

#### 4. 製剤の各種条件下における安定性

##### 長期保存試験

最終包装製品を用いた長期保存試験(室温保存、3年間)の結果、外観及び含量等は規格の範囲内であり、ベタヒスチンメシル酸塩錠 6 mg「テバ」及びベタヒスチンメシル酸塩錠 12 mg「テバ」は通常の市場流通下において3年間安定であることが確認された。

##### 試験結果

ベタヒスチンベシル酸塩 6mg「TYK」

保存条件:温度 25°C±1°C, 湿度 60±5%RH

(上段 PTP、下段バラ)

試験項目	規格	保存期間	
		開始時	36ヵ月後
性状	白色の素錠	適合	適合 適合
確認試験 (吸収スペクトル)	波長 259~263nm に 吸収の極大を示す	適合	適合 適合
製剤均一性試験	判定値が 15.0%を超えない	適合	適合 適合
純度試験 (類縁物質)	試料溶液のベタヒスチンに対する相対保持時間約 1.9 のピーク面積は、標準溶液のベタヒスチンのピーク面積の 3/5 より大きくない。また、試料溶液のベタヒスチン以外のピークの合計面積は、標準溶液のベタヒスチンのピーク面積より大きくない	適合	適合 適合
溶出性(%)	15分:80%以上	97~105	95~105 94~106
定量 (平均値%)	93.0~107.0%	100.5	100.6 100.4

[3 ロット、n=3/ロット]

ベタヒスチンベシル酸塩 12mg「TYK」

保存条件:温度 25°C±1°C, 湿度 60±5%RH

(上段 PTP、下段バラ)

試験項目	規格	保存期間	
		開始時	36ヵ月後
性状	割線を有する白色の素錠	適合	適合 適合
確認試験 (吸収スペクトル)	波長 259~263nm に 吸収の極大を示す	適合	適合 適合
製剤均一性試験	判定値が 15.0%を超えない	適合	適合 適合

純度試験 (類縁物質)	試料溶液のベタヒスチンに対する相対保持時間約 1.9 のピーク面積は、標準溶液のベタヒスチンのピーク面積の 3/5 より大きくない。また、試料溶液のベタヒスチン以外のピークの合計面積は、標準溶液のベタヒスチンのピーク面積より大きくない	適合	適合
溶出性(%) (最小値～最大値)	15分:80%以上	97～105	95～104 94～105
定量 (平均値%)	93.0～107.0%	101.0	100.5 100.9

#### 5. 調製法および溶解後の安定性

該当しない

#### 6. 他剤との配合変化(物理化学的变化)

該当資料なし

#### 7. 溶出性

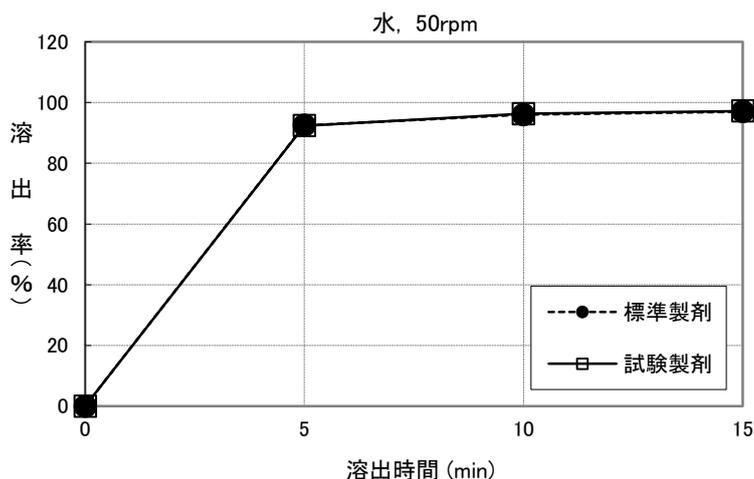
<標準製剤との溶出比較試験><sup>3)4)</sup>

ベタヒスチンメシル酸塩錠 6 mg「テバ」

「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン等の一部改正について」の訂正について(平成 19 年 5 月 30 日 事務連絡)中の「含量が異なる経口固形製剤の生物学的同等性試験ガイドライン」に従い、標準製剤と試験製剤との溶出性の比較を行った結果、ベタヒスチンメシル酸塩錠 6mg「テバ」は標準製剤と同様の溶出挙動を示した。

試験方法	日本薬局方 一般試験法溶出試験法 パドル法		
試験液量	900mL	温度	37±0.5℃
試験液	水:日本薬局方精製水		
界面活性剤	なし		
回転数	50 回転		

時間	標準製剤 平均溶出率	試験製剤 平均溶出率	溶出挙動の同等性 の判定基準範囲	溶出挙動の同等性 の判定
15分	97.0	97.2	82.0～112.0	適

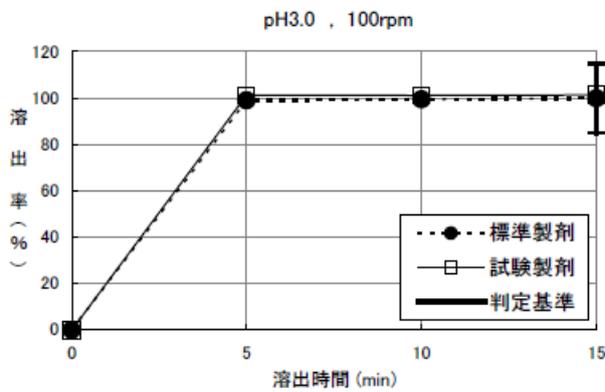
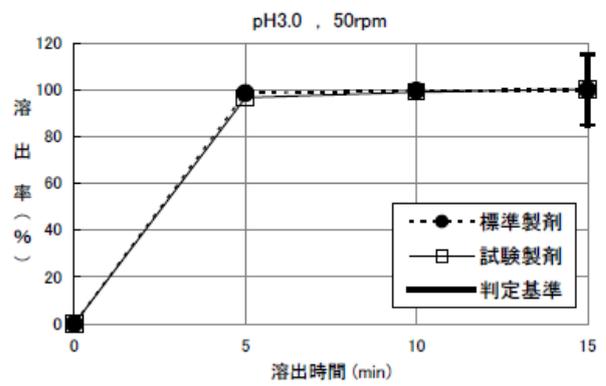
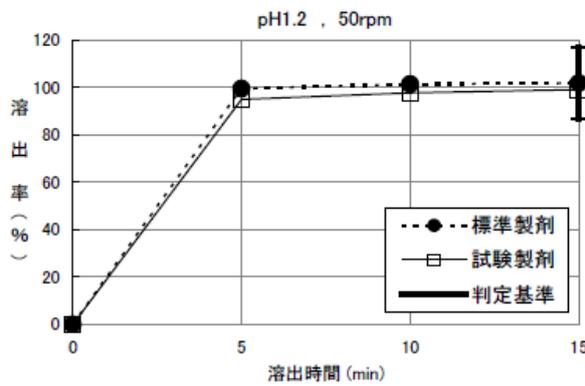
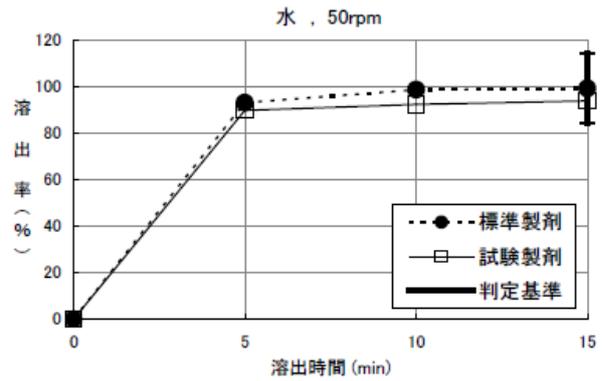
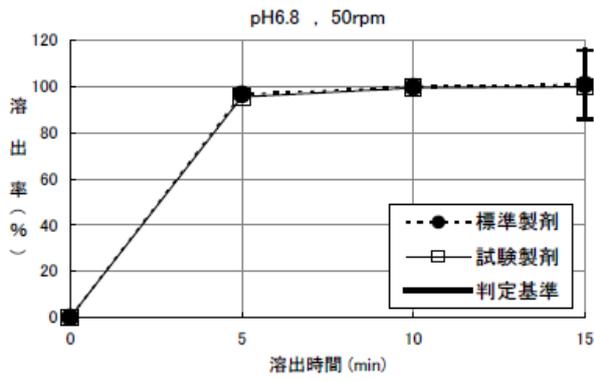


ベタヒスチンメシル酸塩錠 12 mg「テバ」

「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン(一部改正)」(平成 18 年 11 月 24 日、薬食審査発第 1124004 号)に従い、標準製剤と試験製剤との溶出性の比較を行った結果、ベタヒスチンメシル酸塩錠 12 mg「テバ」は標準製剤と同様の溶出挙動を示した。

試験方法	日本薬局方 一般試験法溶出試験法 パドル法		
試験液量	900mL	温度	37±0.5℃
試験液	pH1.2: 日本薬局方溶出試験の第 1 液		
	pH3.0: 薄めたMcIlvaineの緩衝液		
	pH6.8: 日本薬局方溶出試験の第 2 液		
	水: 日本薬局方精製水		
界面活性剤	なし		
回転数	50 回転:pH1.2、pH3.0、pH6.8、水 100 回転:pH3.0		
標準製剤の平均溶出率が 85%以上の時点で終了とする。			

方法	試験条件			標準製剤	試験製剤	判定
	回転数 (rpm)	試験液	採取時間 (min)	平均溶出率 (%)	平均溶出率 (%)	
パドル法	50	pH1.2	15	101.8	99.1	適
		pH3.0	15	99.9	100.2	適
		pH6.8	15	100.8	99.9	適
		水	15	99.3	93.9	適
	100	pH3.0	15	99.8	101.3	適



## 8. 生物学的試験法

該当しない

## 9. 製剤中の有効成分の確認試験法

日局「ベタヒスチンメシル酸塩錠」確認試験による  
紫外可視吸光度測定法(吸収スペクトル)

## 10. 製剤中の有効成分の定量法

日局「ベタヒスチンメシル酸塩錠」定量法による  
液体クロマトグラフィー

11. カ 価

該当しない

12. 混入する可能性のある夾雑物<sup>1)</sup>

ベタヒスチンの二量体

13. 治療上注意が必要な容器に関する情報

該当資料なし

14. その他

特になし

## V 治療に関する項目

### 1. 効能又は効果

下記の疾患に伴うめまい、めまい感  
メニエル病、メニエル症候群、眩暈症

### 2. 用法及び用量

錠 6mg: 通常、成人 1 回 1～2 錠(ベタヒスチンメシル酸塩として 1 回 6～12mg)を 1 日 3 回食後経口投与する。

ただし、年齢、症状により適宜増減する。

錠 12mg: 通常、成人 1 回 1 錠を 1 日 3 回食後経口投与する。

(なおベタヒスチンメシル酸塩としての 1 回の用量は 6～12mg である。)

ただし、年齢、症状により適宜増減する。

### 3. 臨床成績

該当資料なし

(1) 臨床データパッケージ(2009 年 4 月以降承認品目)

(2) 臨床効果

(3) 臨床薬理試験：忍容性試験

(4) 探索的試験：用量反応探索試験

(5) 検証的試験

1) 無作為化並行用量反応試験

2) 比較試験

3) 安全性試験

4) 患者・病態別試験

(6) 治療的使用

1) 使用成績調査・特定使用成績調査(特別調査)・製造販売後臨床試験(市販後臨床試験)

2) 承認条件として実施予定の内容又は実施した試験の概要

## VI 薬効薬理に関する項目

### 1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群

ジフェニドール塩酸塩、ジフェンヒドラミン等

### 2. 薬理作用

#### (1) 作用部位・作用機序<sup>1)</sup>

ヒスタミン H<sub>1</sub> 受容体刺激薬(部分作動薬)である。眩暈、平衡障害の改善には、内耳微小循環血流量増加などが関与すると考えられる。

#### (2) 薬効を裏付ける試験成績

該当資料なし

#### (3) 作用発現時間・持続時間

該当資料なし

## VII 薬物動態に関する項目

### 1. 血中濃度の推移・測定法

#### (1) 治療上有効な血中濃度

該当資料なし

#### (2) 最高血中濃度到達時間

「VII.1. (3)臨床試験で確認された血中濃度」の項参照

#### (3) 臨床試験で確認された血中濃度

<生物学的同等性><sup>5)</sup>

ベタヒスチンメシル酸塩錠 12mg「テバ」

ベタヒスチンメシル酸塩錠 12mg「テバ」と標準製剤をクロスオーバー法により、それぞれ1錠(ベタヒスチンメシル酸塩として 12mg)を健康成人男子に空腹時単回経口投与して血漿中2-ヒリジル酢酸(ベタヒスチンメシル酸塩の主代謝物)濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ(AUC、Cmax)について90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、log(0.8)～(1.25)の範囲内であり、両剤の生物学的同等性が確認された。

「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン(一部改正)」(平成18年11月24日、薬食審査発第1124004号)

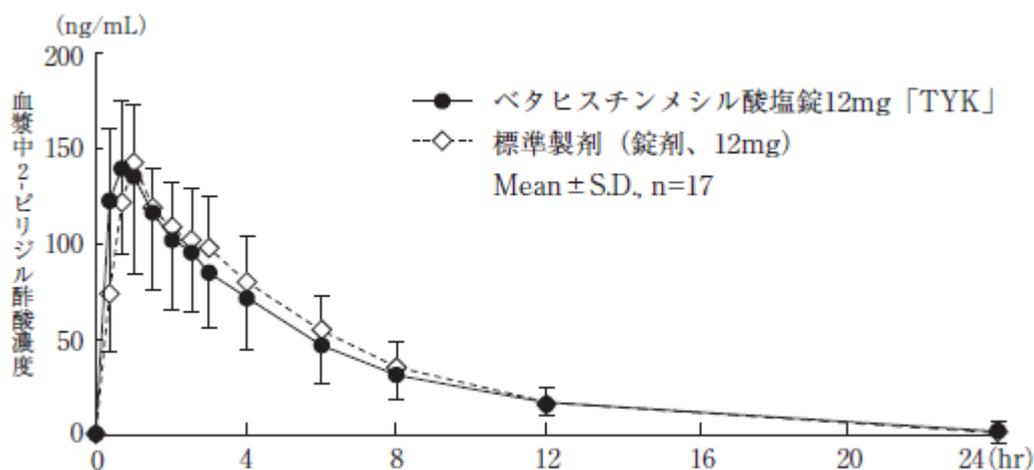
被験者数	18名(1名LDH高値のため脱落)
投与方法	2剤2期のクロスオーバー法
	空腹時単回経口投与
投与量	製剤1錠(ベタヒスチンメシル酸塩として12mg)
休薬期間	6日間
採血時間	投与前、投与後0.33、0.67、1、1.5、2、2.5、3、4、6、8、12及び24時間後の13時点
分析法	LC/MS/MS法

### 試験結果

#### 薬物速度論的パラメータ

	判定パラメータ		参考パラメータ		
	AUC <sub>0~24</sub> (ng・hr/mL)	Cmax (ng/mL)	tmax (hr)	kel (/hr)	t <sub>1/2</sub> (hr)
ベタヒスチンメシル酸塩錠12mg「テバ」	805.13±276.72	169.88±61.78	0.80±0.55	0.172±0.048	4.65±2.72
標準製剤(錠剤、12mg)	849.78±226.14	161.96±47.46	1.30±0.83	0.181±0.051	4.14±1.22

	AUC <sub>0~24</sub>	Cmax
2製剤間の対数変換値の差	log(0.94450)	log(1.04265)
90%信頼区間(%)	log(0.81219)～log(1.08937)	log(0.89427)～log(1.21565)



血漿中濃度並びに AUC、Cmax 等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

ベタヒスチンメシル酸塩錠 6mg「テバ」

ベタヒスチンメシル酸塩錠 6mg「テバ」は、「含量が異なる経口固形製剤の生物学的同等性試験ガイドライン(平成 18 年 11 月 24 日付薬食審査発第 1124004 号)」に基づき、ベタヒスチンメシル酸塩錠 12mg「テバ」を標準製剤としたとき、溶出挙動が等しく、生物学的に同等とみなされた。

(4) 中毒域

該当資料なし

(5) 食事・併用薬の影響

該当資料なし

(6) 母集団(ポピュレーション)解析により判明した薬物体内動態変動要因

該当資料なし

2. 薬物速度論的パラメータ

該当資料なし

(1) コンパートメントモデル

該当資料なし

(2) 吸収速度定数

該当資料なし

(3) バイオアベイラビリティ

該当資料なし

(4) 消失速度定数

「VII.1. (3)臨床試験で確認された血中濃度」の項参照

(5) クリアランス

該当資料なし

(6) 分布容積

該当資料なし

(7) 血漿蛋白結合率

該当資料なし

3. 吸 収

該当資料なし

4. 分 布

該当資料なし

(1) 血液－脳関門通過性

(2) 血液－胎盤関門通過性

(3) 乳汁への移行性

(4) 髄液への移行性

(5) その他の組織への移行性

5. 代 謝

該当資料なし

(1) 代謝部位及び代謝経路

(2) 代謝に関与する酵素(CYP450 等)の分子種

(3) 初回通過効果の有無及びその割合

(4) 代謝物の活性の有無及びその比率

(5) 活性代謝物の速度論的パラメータ

## 6. 排泄

該当資料なし

(1) 排泄部位及び経路

(2) 排泄率

(3) 排泄速度

## 7. 透析等による除去率

該当資料なし

## Ⅷ 安全性(使用上の注意等)に関する項目

### 1. 警告内容とその理由

該当しない

### 2. 禁忌内容とその理由(原則禁忌を含む)

該当しない

### 3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

### 4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

### 5. 慎重投与内容とその理由

次の患者には慎重に投与すること

(1)消化性潰瘍の既往歴のある患者及び活動性の消化性潰瘍のある患者 [本剤はヒスタミン類似作用を有するため、H<sub>2</sub>受容体を介して胃酸分泌亢進を引き起こすおそれがある。]

(2)気管支喘息の患者[本剤はヒスタミン類似作用を有するため、H<sub>1</sub>受容体を介して気道の収縮を引き起こすおそれがある。]

(3)褐色細胞腫のある患者[本剤はヒスタミン類似作用を有するため、アドレナリンの過剰分泌により血圧上昇を引き起こすおそれがある。]

### 6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法

該当しない

### 7. 相互作用

#### (1) 併用禁忌とその理由

該当しない

#### (2) 併用注意とその理由

該当しない

### 8. 副作用

#### (1) 副作用の概要

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

#### (2) 重大な副作用と初期症状

該当しない

(3) その他の副作用

	頻度不明
消化器	悪心・嘔吐
過敏症注)	発疹

注):このような症状があらわれた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

(4) 項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧

該当資料なし

(5) 基礎疾患、合併症、重症度及び手術の有無等背景別の副作用発現頻度

該当資料なし

(6) 薬物アレルギーに対する注意及び試験法

発疹があらわれた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

9. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。[妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。]

11. 小児等への投与

小児に対する安全性は確立していない(使用経験が少ない)。

12. 臨床検査結果に及ぼす影響

該当資料なし

13. 過量投与

該当資料なし

14. 適用上の注意

薬剤交付時:PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。(PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔を起こして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。)

15. その他の注意

該当資料なし

16. その他

特になし

## Ⅸ 非臨床試験に関する項目

### 1. 薬理試験

該当資料なし

(1) 薬効薬理試験(「Ⅵ. 薬効薬理に関する項目」参照)

(2) 副次的薬理試験

(3) 安全性薬理試験

(4) その他の薬理試験

### 2. 毒性試験

該当資料なし

(1) 単回投与毒性試験

(2) 反復投与毒性試験

(3) 生殖発生毒性試験

(4) その他の特殊毒性

## X 管理的事項に関する項目

### 1. 規制区分

製 剤: 処方箋医薬品(注意—医師等の処方箋により使用すること)

有効成分: 該当しない

### 2. 有効期間又は使用期限

使用期限: 3年(安定性試験結果に基づく)

### 3. 貯法・保存条件

湿気を避けて室温保存

### 4. 薬剤取扱い上の注意点

#### (1) 薬局での取り扱いについて

特になし

#### (2) 薬剤交付時の注意(患者等に留意すべき必須事項等)

「Ⅷ 14.適用上の注意」の項参照

### 5. 承認条件等

特になし

### 6. 包装

100錠(PTP10錠×10)

1000錠(PTP10錠×100)

500錠(バラ)

### 7. 容器の材質

PTP包装	PTPシート	ポリ塩化ビニル・ポリ塩化ビニリデン・ポリエチレン多層フィルム、アルミニウム箔
	ピロー	アルミニウム・ポリエチレンラミネートフィルム
バラ包装	容器	ポリエチレン
	キャップ	ポリプロピレン

### 8. 同一成分・同効薬

同一成分薬: メリスロン(エーザイ)

同 効 薬: ジメンヒドリナート、ジフェンドール塩酸塩

### 9. 国際誕生年月日

該当しない

10. 製造販売承認年月日及び承認番号

製造販売承認年月日:2012年 2月 15日

承認番号 :

ベタヒスチンメシル酸塩錠 6mg「テバ」:22400AMX00177

ベタヒスチンメシル酸塩錠 12mg「テバ」:22400AMX00178

(旧販売名:メタヒスロン錠)

製造販売承認年月日:1976年 12月 24日

承認番号 : (51AM) 931

(旧販売名:メタヒスロン錠 6mg)

製造販売承認年月日:2005年 6月 6日

承認番号 : 21700AMZ00641

(旧販売名:メタヒスロン錠 12mg)

製造販売承認年月日:1976年 12月 24日

承認番号 : (51AM)1053

11. 薬価基準収載年月日

2012年 6月 22日

12. 効能・効果追加、用法・用量変更追加等の年月日及びその内容

該当しない

13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容

該当しない

14. 再審査期間

該当しない

15. 投薬期間制限医薬品に関する情報

本剤は、投薬期間に関する制限は定められていない。

16. 各種コード

販売名	HOT 番号	厚生労働省薬価基準 収載医薬品コード (YJ コード)	レセプト電算コード
ベタヒスチンメシル酸塩 錠 6mg「テバ」	102348005	1339005F1415	620234804
ベタヒスチンメシル酸塩 錠 12mg「テバ」	102357210	1339005F2187	620235709

## 17. 保険給付上の注意

本剤は保険診療上の後発医薬品である。

## XI 文 献

### 1. 引用文献

- 1) 第十六改正 日本薬局方解説書 (2011)
- 2) 医療用医薬品 品質情報集 No.11 2002, 日本公定書協会
- 3) 武田テバ薬品(株) 社内資料:溶出試験(錠 6mg)
- 4) 武田テバ薬品(株) 社内資料:溶出試験(錠 12mg)
- 5) 武田テバ薬品(株) 社内資料:生物学的同等性試験

### 2. その他の参考文献

特になし

## XII 参考資料

### 1. 主な外国での発売状況

該当しない

### 2. 海外における臨床支援情報

該当資料なし

## XIII 備 考

### その他の関連資料

該当資料なし